



たしかな技術と情熱が未来を拓く 足元から安全を支える トラック用タイヤ

ユーザーの声を反映したコンセプトタイヤ

タイヤは

単なる「黒いゴムの輪」ではない

「タイヤ」と聞いて、何を思い浮かべますか？
夏用と冬用がある、溝が減ると滑りやすい、そんなイメージを持つ方も、多いのではないのでしょうか。

しかし、タイヤは単なる黒いゴムの輪ではありません。車を動かすうえで欠かせない非常に重要なパーツです。その種類やサイズ、性能は「何を運ぶか」「どこを走るか」といった目的に応じて細かく設計されています。車本体がどれだけ高性能でも、その力を路面に伝えるのはタイヤです。エンジンやブレーキ、ハンドルの性能を最大限に引き出すためには、タイヤの性能が不可欠です。タイヤは、車を支える、方向を変える、止める・走らせる、衝撃を和らげるといった車の基本的な動きを支える重要なパーツです。

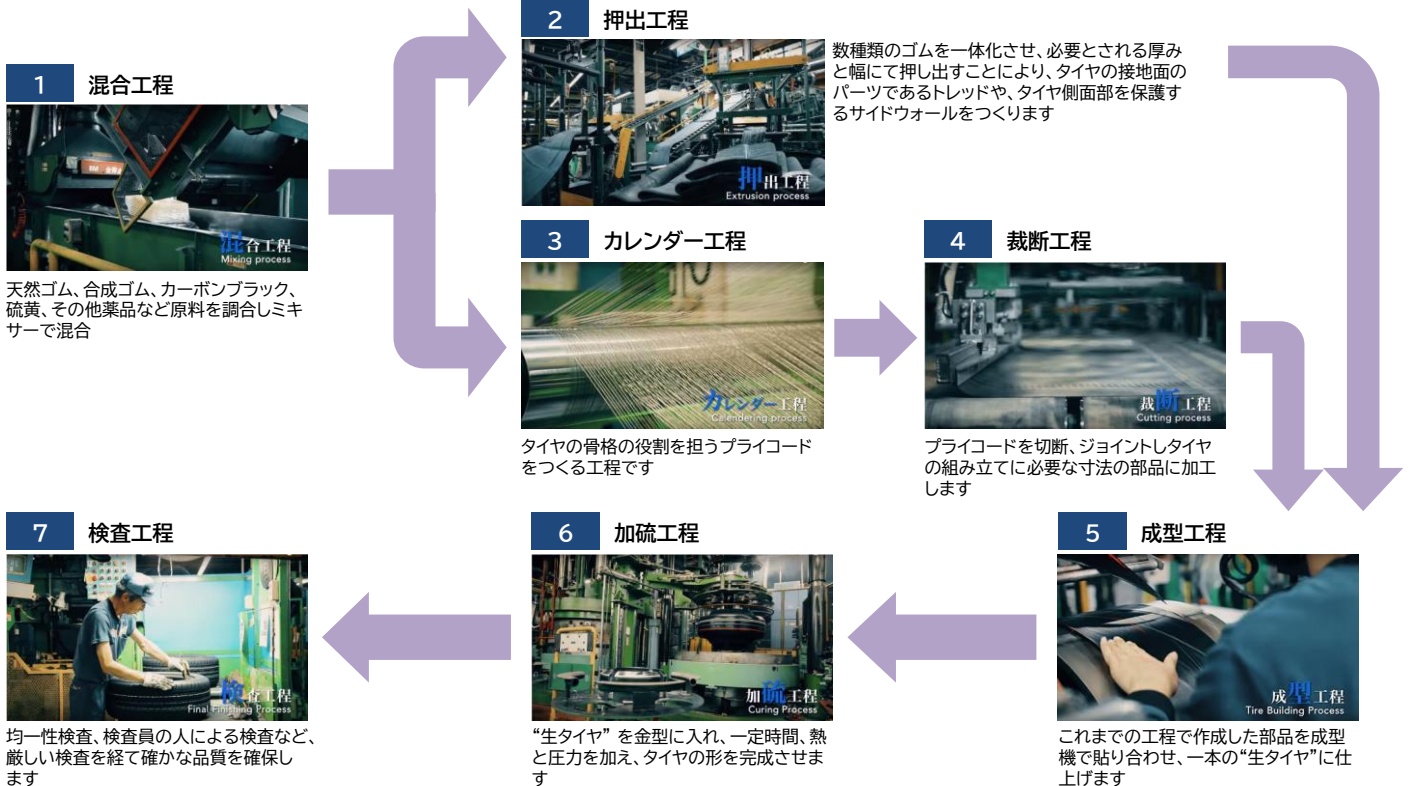
特に、多くの荷物を載せて長距離を走るトラックのタイヤは、乗用車用とは機能が大きく異なります。その中でも、大型4軸低床車は、2軸目左側のタイヤに大きな負荷がかかり、タイヤが偏ってすり減る「偏摩耗」が発生します。これが物流業界における長年の課題となっていました。偏摩耗は、タイヤの寿命を縮めてしまったため、頻繁な点検や交換が必要となり、整備への負担が大きくなっていました。

この課題を解決するために開発されたのが、トーヨータイヤの「M630」です。この新しいタイヤは、メーカーの技術力と、ユーザーの「困りごと」に向き合い、ユーザーと共に解決したい、という情熱から生まれました。

タイヤ製造の工程

タイヤは、原料から完成まで数多くの製造工程を経て作られます。

見た目は黒くて丸いタイヤ、実はゴムの柔軟性と、金属の強度や耐久性を組み合わせで作られた精密なハイブリッド製品です。その製造工程をご紹介します。



TOYO TIRE 企業サイト より <https://www.toyotires.co.jp/recruit/factory/>

タイヤの性能

タイヤの性能は5つの要素で決まります。何よりも性能のバランスが重要です！

タイヤの性能を左右する5つの要素



安全・快適な走行・乗り心地に影響する タイヤの4つの役割



車を支える



車の方向を変える



車を止める/走らせる



車への衝撃を和らげる

出所：JATMA ホームページ（タイヤのお話）より

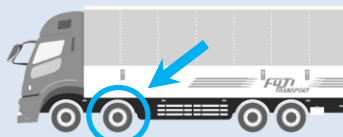
タイヤはなぜ黒い？

タイヤの原料である天然ゴムはもともと白く柔らかいものです。そこに「カーボンブラック」という炭を入れることで黒くなります。カーボンブラックを混ぜると強度が増し、路面との摩擦による摩耗にも強くなります。また紫外線によるゴムの劣化を防ぐ効果もあるんですよ！

低メンテナンス・ロングライフを実現 新コンセプトタイヤ“M630”の特徴

大型4軸低床車は、2軸目左側のタイヤが偏ってすり減ってしまうという課題を抱えていました。これによりタイヤ全体の寿命を縮めるだけでなく、頻繁な交換や空気圧の調整など、メンテナンスの手間を増やす原因にもなっていました。こうした課題を解決するためにトーヨータイヤ様と共同開発したのが、今回の新しいコンセプトのタイヤ“M630”です。物流業界が直面している「2024年問題」などの課題に対応できるソリューションとして、今注目を集めています。

大型4軸低床車は、横から見て前後に2つずつ、合計4つの軸を持つ車両です。2軸目とは前方の軸から2番目のタイヤが設置される車軸を指します。



低メンテナンス

偏摩耗を抑制するブロックパターンの設計を採用したことで、耐偏摩耗性能が向上。これによりタイヤローテーションサイクルが減少し、メンテナンス時間の削減につながります。



ロングライフ

路面に接触するトレッド部分の幅広化設計と、トレッドのパターンを構成するブロックの高密度配置により過度な動きを抑制。耐摩耗性能が向上します。



環境への貢献

高剛性ブロック採用の新パターンによりタイヤの転がり抵抗を低減し、燃費が良くなる事によりCO₂排出量の削減に貢献します。



セノプロトラックスのコーポレートロゴを刻印

今回の共同開発のご縁を記念し、トーヨータイヤ様の計らいにより SENOPRO TRUCKSのコーポレートロゴをタイヤ側面に刻印していただくことになりました。さりげないながらも確かな存在感を放つロゴはスタイリッシュで洗練された印象を与えるとともに、両者のパートナーシップの証でもあります。

ジャパントラックショー2024出展

ジャパントラックショー2024(2024年5月 パシフィコ横浜開催)にてコンセプトタイヤ「低メンテナンスオールウェザータイヤ」を発表しました。SENOPROTRUCKS 瀬野代表、トラックYouTuberを交えたトークセッションを開催しました。





日本の物流を支える ロジスティクスパートナーであり続けたい

フジグループ様とのお付合いは、2018年ドイツ国際モーターショー（IAA）に出展された「JAPAN仕様のカスタマイズドトラックに装着するタイヤとしてご指名いただいたことからスタートしました。

その後、お取引をさせていただくようになり、グループの皆様にはタイヤに関する困りごとをヒアリングするなか「寿命が長く、整備の手間を最小限に抑えるタイヤがあれば使用したい」との声をいただきました。

株式会社トーヨータイヤジャパン
企画本部 生産財担当部長

やまだ とし みつ
山田 俊光さん

世間では人手不足が深刻化しはじめたころ。物流・タイヤ業界 双方にとってタイヤ整備の省人化は共通課題……。この大きな課題の解消を目指しフジグループ様と共同で開発した商品が、ロングライフ性能と低メンテナンス性能を極限まで追求した「M630」です。開発初期段階ではヒアリングと室内テストを重ね、パターンの異なる3種類のタイヤを試作。実車を使用したテストを経てパターンを1種類に絞り、そこから更にデータ取りや、ドライバの皆様の声を反映させながら開発を進めました。タイヤは複数のパーツが組み合わさる複雑な仕様になっており、溝の位置を少し変えるだけでも、摩耗性能と偏摩耗性能のバラ



空気充填講習を実施

自動車用タイヤの空気充填作業は高圧の空気を取り扱うことから危険が伴うため、各工場に赴きタイヤ交換作業を行う整備士や管理者向けの空気充填作業の特別教育を実施しています。

TOYO TIRES 会社概要

会社名	TOYO TIRE株式会社
設立	1945年（昭和20年）8月1日
代表者	清水 隆史
所在地	【本社】 兵庫県伊丹市藤ノ木2丁目2番13号 【東京事務所】 東京都品川区東品川 4-12-4 品川シーサイドパークタワー19F
事業内容	【タイヤ事業】 各種タイヤ（乗用車用、ライトトラック用、トラック・バス用） 【自動車部品事業】 自動車部品（防振ゴム）
工場	仙台工場/桑名工場 他
資本金	55,935百万円
従業員数	11,202名（連結、臨時従業員含む） ※2024年12月31日現在

スが変化します。溝が深ければ長持ちするわけではなく、使用条件にあった最適な溝の深さがあります。個々のパーツを一つ一つ丁寧に作り、組み合わせで完成したのが「M630」です。

時代の流れとともに物流業界やトラックは進化し、同時にタイヤ業界も変化に対応してきました。「M630」の開発はヒアリングとテストを入念に行い、完成までに長い年月を掛けましたが、その分、自信をもっておすすめできる商品が仕上がりました。

ユニークな発想と独自の技術力、そして状況や環境の変化に対応する機動力はわたしたちトーヨータイヤの強みであると自負しています。これからもその強みを武器として物流業界の課題解決に挑戦してまいります。

暮らしと物流を支えるタイヤがここにある
トラック&バス用タイヤ

製品情報はこちら

M646
トラック&バス用
トラクション重視オールウェザー

M676
NANOENERGY
トラック&バス用
低燃費重視オールウェザー

M939
トラック&バス用
バランス性能重視スタッドレス

M919
トラック&バス用
バランス性能重視スタッドレス

M966
NANOENERGY
トラック&バス用
低燃費重視スタッドレス